

令和7（2025）年度 学生代表者会議を2025年8月26日（火）に開催しました。
当日は、学生委員として各学科から選出された代表学生が9名、大学側からは浅尾学長をはじめ、副学長、各研究科長、各学部長等12名が参加し、本学の自己点検評価書をもとに、カリキュラム内容・学修方法、学生サービス、キャリア支援、教育環境などの現状について、活発な意見交換が行われました。なお、昨年度に引き続き、ZOOMによるオンライン会議で実施いたしました。

【学生の受入れについて】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答（150字程度）	担当部署
Q1 大学選びでは、何を一番重視されましたか。また、大学を選ぶときに、どの程度アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）を参考にしましたか。 アドミッションポリシーはこちら>>>	1	大学選びで1番重視したことは、入試制度と入学後に何について学ぶことが出来るかだった。私は共通テストを受験した後に大学選びを始めたため、入試制度と入学後の学びについて最重視した。 その他、自宅からの通いやすさや学費なども重視したが、あまりアドミッションポリシーを参考にすることはなかった。	入試制度と学部・学科の学びが大学選択の主要な条件であり、その他に通いやすさ、学費も参考材料としたのですね。様々な条件で大学選択をされていることが分かりました。今後の参考にしたいと思います。また、アドミッションポリシーは、あまり参考にしなかったということですが、大学の特徴が示されているので、大学選びの参考になると思います。	入試広報室
	2	歴史文化への触れやすさ、取得資格など。	本学科は、歴史と文化を深く学ぶことで得られる専門知識や資格を活かして、社会で活躍できる人材を育てることを目指しています。本学科の充実した教育内容が大学選びの決め手となったようで嬉しく思います。今後も、学生の皆さんの将来に役立つような教育ができるよう努力していきます。	文学部（歴史文化学科）
	3	内部進学だったこともあり軽くパンフレットに目を通しただけだった。 高校を選ぶときに、上に幼稚園教諭一種免許状と保育士資格が取得できる大学がついている内部進学ができる高校を選んでいたので、その時から大学のことも視野に入れていた。	将来の進路を考え、大学にて取得できる資格・免許は大学選びの際に重視される点だと思います。内部進学を希望する皆さんに大学側から説明をするなど今後も学園内の高校とも連携を深められるよう努めます。	教育学部（教育学科）
	4	学校の教員や学生の雰囲気が一番重視した。アドミッションポリシーは、調べてほかの大学と比較するのに使った。	大学の雰囲気が進学先選択の条件になっていることが分かりました。大阪大谷大学は、学生と教職員の距離が近いことが特徴です。そのことは、質問のしやすさにつながり、成長をサポートする強いコンテンツになっていると考えています。また、アドミッションポリシーは、大学の特徴が表れており、大学を選択する際の参考になると思いますので、今後も丁寧	入試広報室
	5	医学、心理学、教育学の3領域を体験を通して学ぶことが出来るというところ。 教育学科のアドミッションポリシーはとても参考にした。 幅広い教養と専門的な知識・技術によって問題解決を図る能力を身につけ、他者と協働し個に応じた指導や支援ができる実践力を備えた人材の育成を目指す。というところを特に参考にして、パンフレットやオープンキャンパスを利用して大学選びをした。	オープンキャンパスなどを利用し、特別支援教育として3領域を体験を通して学べる点を選んでもらえたことは、本学部でも大切にしたい貴重なご意見です。ありがとうございました。	教育学部（教育学科）
	6	学びやすさ、いつでも教員に聞けるような環境で勉強したかった。 アドミッションポリシーの4番である人や社会に高い関心があり、企業や行政、教育の現場などの職場で社会に貢献するために、積極的に学びたいという意欲をもっている。	本学科では、オフィスアワーという公式な制度だけではなく、非公式にも、まさに「いつでも」質問できるような学生と教員との近い距離感を醸成できるように努めてきました。今後とも、学生委員を引き受けてくれた学生をはじめとする学生の皆さんたちの期待に応えるべく、学科教員組織に対して繰り返しこうした近い距離感の重要性についてリマインドしていきます。また、社会に貢献できるよう、これまでどおり、学内の授業に加えて、現場に出るような体験の機会を継続して提供していきます。	人間社会学部（人間社会学科）
	7	アドミッションポリシーは参考にせず心理学を学ぼうと思って近い大学を選んだ。	アドミッションポリシーは参考にはしなかった場合であっても、後から自身の入学時のことを思い出して、自身がどの程度アドミッションポリシーに適合していたのかを振り返ると、充足している部分と不足している部分がわかって、学修計画にも参考にはなるのではないかと思います。	人間社会学部（心理・福祉学科）
	8	大学選びでは、自分が学びたいスポーツ健康学を専門的に学べる学科があることを一番重視した。将来、スポーツや健康分野で活躍したいという目標があったので、学科の有無は大きな決め手になった。また、大学のアドミッションポリシーもかなり参考にした。特に、スポーツを通じて地域や社会に貢献できる人材育成を目指す方針に共感し、自分の目指す方向と合っていると感じたためである。	学部・学科選びというのは、それぞれ学びたいことや将来の進路を考えながら選ぶのが一番大きなことだと思います。学びたいこと、将来の希望に合うような学びができる学科として選んでもらったことは、とても嬉しく思います。アドミッションポリシーについても、非常によく見てもらっていて、大学としては、色んな場面で説明していることもあり、参考にしてもらえているのであれば、大変よかったです。また、他大学と比較したうえで本学の特徴を捉えて、共感し、本学科を選択してもらえたことがよく分かりましたので、これからもアドミッションポリシーをしっかりと示しながら、他大学との違い、本学の特徴を分かりやすく説明するということが重要だということにも気付かされました。	入試広報室
	9	大学選びで一番重視したことは、大学へのアクセスのしやすさである。薬学部は6年間大学に通って学ぶため、自宅から通いやすく、生活のリズムを整えながら6年間通えることを重視していた。長い期間学ぶからこそ、無理なく続けられるかどうかでも大事だと思った。	薬学部は、薬剤師になることが一番の目指す進路であると思っていますので、そういう意味においては、他大学にも薬学部があるなかで、どのような基準で大学を選ぶのかというところに関して、「大学へのアクセスのしやすさ」は、そのひとつではないかと思いました。授業が多いことについては、こちらも重々把握しています。通学時間が大きな選択肢のひとつだったということを今回の意見で知り、「大学への通いやすさ」はこちらが説明するときのポイントになることも学ぶことができました。また、アドミッションポリシーは、それぞれの大学の特徴が表れているところでもありますので、広報活動の際にはそのあたりも注意しながら説明していきたいと思っています。	入試広報室
自由記述	その他、学生の受入れについて、気づいた点等があれば記入してください。	—	—	—

【学修支援について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q2 「Moodle」や「tani-WA」といった本学の学習支援システムは、利用しやすいものになっていますか。また、教員によるオフィスアワーは活用していますか。学修支援に関する印象や感じていることを教えてください。	10	学習支援システムは何時でも確認することができるため利用しやすいと感じる。しかし、先生によっては課題提出にtani-WAを使用せず、GoogleフォームやMicrosoftのフォームを使われる先生もいらっしゃいます。統一できるのであれば統一して頂けると学生は管理がよりしやすいと感じます。また、tani-WAであれば提出したものの確認もできるため良いと感じます。オフィスアワーに関してはあまり活用できていませんが、自主的に授業前後に質問をしたりするなどで特に不満はありません。	tani-WAは私も使いやすい、と感じますが、教員個々には成績管理の方法など、個人差があって、tani-WAひとつだけに統合するのは難しいかもしれません。ただ、学生の皆さんからの要望があれば、考慮してもらえる可能性もあります。直接交渉してみる、あるいは、授業評価アンケートなどに要望を書いてみる、などしたらいかがでしょうか。後者の場合、手遅れのようにも、同じ教員の別の科目を受講した時に反映されるかもしれません。	文学部（日本語日本文学科）
	11	Moodleやtani-WAは、4年間使うものなので使いやすいものだと思う。tani-WAに関しては、ほとんどの授業で活用されているため、慣れていることもあり、とても使いやすいと感じているが、Moodleに関しては使う機会が少ないので、利用しやすいかと言われると答えづらい。	tani-WA とMoodleについては、授業によって、あるいは教員によっても使い方が違うと思いますが、実際、自分自身もMoodleのほうが少し使いにくい部分もあって、あまり使っていないところがあります。両者とも本学の学習支援システムですが、機能や目的が少しずつ異なっていることから、その目的に応じて使い分けていて、簡単に統合することでもできません。これまでも新入生に対して、その使い方の説明は行っているものの、今後はもう少し丁寧に説明するようにしたり、個々の授業の最初の段階で主にどちらを使用するのか、目的によってどのように使い分けるのかについて説明したり、教員側でも留意して使用していきたいと思います。	文学部（歴史文化学科）
	12	tani-WAは提出期限や更新もわかりやすく利用しやすいものになっていると思う。時々、未提出課題一覧に載っていないで、提出期限が設定されていないものがある。Moodleはあまり使ったことがない。教員によるオフィスアワーは活用したことがない。学修支援に関するシステムはきっといっぱいあるはずなので、もっとわかりやすく紹介してほしい。	tani-WAについてもより使いやすいように機能が更新されていますので、課題点などがあれば今後もご意見ください。また、本学での学修支援システムであるtani-WAとmoodleについて入学時での説明をより丁寧にを行うよう改善に努めます。	教育学部（教育学科）
	13	tani-WAは課題の取り組みはやりやすいが、今年度から通知がこないことが多く、学部内でも連絡が来ていなくてできなかったという声を何回かきくことがあった。	tani-WAの通知機能について多すぎるというご意見もありましたので、通知機能を使わずに授業時間内で伝えている場合もあると推測します。tani-WAに毎日一度は接続し、赤いマークが付いている場合は確認するようにしてください。	教育学部（教育学科）
	14	学生として一番利用しているtani-WAは利用しやすいものだと思う。確認したら確認したとボタンを押さなければならなくなった点に関しては不便であると思います。確認していても未確認判定になるのは少し不便だと利用していて感じた。オフィスアワーは、ゼミの担当の先生に気軽に相談できる環境があると思う。学習面で気になることや進路に関しての不安要素がある際に、日程をすぐに設けてくれたことがある。しっかり担当の先生は個々のことを寄り添って考えてくれている印象。	tani-WAの利用について指摘してもらった不便と感じられる点は確認します。オフィスアワーについては気軽に相談できる時間として設定されていますので、是非今後も利用してください。	教育学部（教育学科）
	15	Moodleはあまり使わないので分からないが、tani-WAは使いやすいと感じる。また、Moodleを使う先生が限られているため、そもそもMoodleは必要ないのではないかとと思う。	Moodleは、ほかのLMSにくらべて、より自由にコースをデザインし、高い学修効果を実現することができるなどの利点があります。また、学生が多様なシステムに抵抗感なく対応できるようになることは、これからの時代、とても重要なことです。教員がそのようなMoodleの利点を最大限に活用して授業を行なうことができるように今後とも教員の能力開発に努めていきます。	人間社会学部（人間社会学科）
	16	すごく利用しやすいが、アクティブアカデミーは夜になるとメンテナンスでシラバスを確認できないから少しだけ困った。	Active Academyは障害を極力避けなければならない、メンテナンスはシステムの安全な運用を行う上で欠かせないものですので、その点ご理解ください。	人間社会学部（心理・福祉学科）
自由記述	17	「Moodle」や「tani-WA」は資料の確認や課題の提出が簡単にでき、操作も分かりやすく利用しやすいと感じています。特に、授業の連絡が一括で見られるのが便利です。オフィスアワーについても、先生方が親身に対応してくださるので、授業内容の理解を深めるために活用しやすいと思います。	「Moodle」や「tani-WA」を積極的に活用されていることがわかり喜んでいます。教職員側も、さらにその機能を効果的に活用できるよう、研修等を重ねたいと思います。	人間社会学部（スポーツ健康学科）
	18	tani-WAについては、日々の課題で利用していて特に不便に感じたことはないです。オフィスアワーは頻繁に活用させていただいています。大阪大谷大学は少人数教育ということもあり、先生方との距離がとても近く、質問しやすい雰囲気があります。わからないところがあればすぐに相談に行けるので、安心して学修に取り組んでいます。また、先生方もいつも快く対応してくださるので、高校にいた時よりも学習意欲は向上したとおもいます。	特に問題なくtani-WAを利用できているとのことで良かったと思います。今後もその機能をうまく活用して、学習効率が上がるように努めたいと思います。また、教員と学生との距離感や対応についても、現状を維持・継続し、学修支援を行っていききたいと思います。	薬学部（薬学科）
	19	English Cafeなどの設備も充実しているが、志学館5階という場所が学生にとっては足を運びにくいのではないだろうか。ほんの一部の学生のみが利用しているように感じる。また、志学館1階にホワイトボード等、たくさんの設備はあるが、食事や個人学習に座席を使用していることが多く、設備に関しては、活用されているとはあまり感じない。	<p>【English Caféについて】</p> <p>English Caféは、志学館5階にあり、足を運びにくいこともあったか、利用率がまだまだ低いということは承知しています。なお、場所については、検討が必要であると考えてはいるものの、現状では移動することが難しいことから、今後は丁寧に説明をして、周知を図っていききたいと思います。</p> <p>【ラーニングコモンズについて】</p> <p>志学館1階については、利用する時間帯にもよりますが、確かにお昼時になると食事をしていることが多いと思います。ただ、ラーニングコモンズという位置付けであるため、使い方については、ある程度、学生の皆さんの自由に任せています。もちろん、学習することが最優先の目的ではありますが、だからといって、食事をするということをやなかなか制限しにくい。なお、時間帯によっては非常に空いていて、特に5限の終わったあとは伸び伸びと学習している様子も見られます。どうしても志学館1階が使いがづらいようなら、図書館や成和館にもラーニングコモンズがありますので、時間帯に応じて使いやすい場所を適宜選び、学内施設を活用してほしいです。</p>	<p>国際教育交流センター</p> <p>教育・学修支援センター</p>

【キャリア支援について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q3 キャリア教育科目やインターンシップ等、大学から提供されているキャリア教育支援は、自分が希望している内容となっていますか。また、キャリアセンターや教職教育センターは、気軽に足を運び、進路等について相談できる場所となっていますか。キャリア支援に関する印象や感じていることを教えてください。	20	キャリア教育支援は悪いとは思っていないが、科目について希望する学生の数と科目やコマの数が少ないのではないかと感じる。早めに対策をしたい学生が抽選落ちする可能性があることは望ましくない。キャリアセンターの中は入ったことはありません。	キャリア教育科目は、コマ数を増やそうとしても予算であったり、時間割の関係もあったりするため、単純に増やすことが難しいので、今後は抽選方法の工夫等も含めて対応していきたいと考えています。また1・2年生時の基礎ゼミで「キャリアセンターツアー」や、ゼミナールⅠで「キャリアセンター出前講座」を取り入れてもらえるよう働きかけ、学生の皆さんに、より気軽にキャリアセンターを利用してもらえるよう努めていきます。	キャリアセンター
	21	おおむね希望している内容になっている。	今後も引き続きキャリア支援内容の充実に努めていきます。	キャリアセンター
	22	幼児教育実践研究センターが今年から職員さんが教務課に異動になったので、足を運びにくくなった。 インターンシップがあることで実習への心の準備が出来ていいなと思った。	幼児教育実践研究センターの実習に関する業務は、今年度から教務課に移行しました。そのため、実習に不安を感じた際には、教務課に相談することができます。また、実習担当の永谷先生は引き続き幼児教育実践研究センターにいますので、そちらに相談することも可能です。インターンシップや実習に関する相談窓口は確保されていますので、安心して取り組んでください。	キャリアセンター
	23	キャリア教育科目は、教員採用試験を受ける教育学部にも受けられる機会があり、教員以外になる場合の道のことを考えられる機会があつていい。 キャリアセンターは教育学部からするとあまりなじみのない場所なので気軽に越えられる場所ではないなと感じる。	今後も引き続きキャリア教育科目の内容の充実に努めていきます。また1・2年生時の基礎ゼミで「キャリアセンターツアー」や、ゼミナールⅠで「キャリアセンター出前講座」を取り入れてもらえるよう働きかけ、学生の皆様に、より気軽にキャリアセンターを利用してもらえるよう努めていきます。	キャリアセンター
	24	キャリア教育科目をほとんど受講したことがない。卒業単位に必要で自分にとって出来そうな授業しか選んでいない。あまり気軽に行くことが出来る場所だという認識はない。しっかりとした理由の相談がないと行く勇気が出ないという印象がある。	3月下旬および4月上旬のフレッシュャーズミーティングや学科オリエンテーションの時間内にキャリアセンター長やキャリア委員の教員がキャリア教育科目の説明を行った上で履修推奨案内を配布して履修啓発を行い履修者増に努めていきます。またキャリアセンターや教職教育センターには、足が運びにくいといった意見が一部あることは認識していますが、キャリアセンターの相談員も教職センターの教員も、非常に親身になって対応してもらえるので、相談事が無くても是非訪ねに来てください。これまでも相談事がないと行きにくいといったような声も聞いたことがありますので、相談事が無くてもふらっと立ち寄れる雰囲気を作り、両センターに気軽に立ち寄れるような機会やプログラム、時間帯等を設けることも検討していきたいです。	キャリアセンター
	25	全て充実していて、良いものだと考えている。特にキャリア教育科目は、インターンなど、企業を探す上でも非常に役に立っていると感じる。今は忙しくてキャリアセンターに行けてないが、落ち着いたら是非とも行きたいと考えている。 教職センターを利用しますが、足を運びやすいかという運びにくく、独特の雰囲気がでているため入りづらいです。もう少し明るい雰囲気にしてほしい。という意見もあった。	今後も引き続きキャリア支援内容の充実に努めていきます。またキャリアセンターや教職教育センターには、足が運びにくいといった意見が一部あることは認識していますが、キャリアセンターの相談員も教職センターの教員も、非常に親身になって対応してもらえるので、相談事が無くても是非訪ねに来てください。これまでも相談事がないと行きにくいといったような声も聞いたことがありますので、相談事が無くてもふらっと立ち寄れる雰囲気を作り、両センターに気軽に立ち寄れるような機会やプログラム、時間帯等を設けることも検討していきたいです。	キャリアセンター
	26	キャリア支援は、1回生の頃から実施されていて、早い時期から就職活動について考えられることは、よいことであると思う。ただ、来年から就職活動が始まるので、SPI対策の科目を2回生のうちに履修しておきたかったが落選してしまい、履修することができなかった。取りたい科目を取りたい時期に取れないことは、少し残念に思う。	キャリア教育科目のなかでも人気があるのは、SPI対策になる「社会教養基礎」「数学教養基礎」、1回生の「ロジカルコミュニケーション」「ロジカルシンキング」があり、抽選となるため、なかなか希望通りに取れないという声は聞いていて、我々も問題意識を強くしています。ただ、キャリア教育科目は、コマ数を増やそうとしても予算であったり、時間割の関係もあったりするため、単純に増やすことが難しいので、今後は抽選方法の工夫等も含めて対応していきたいと考えています。なお、SPI対策については、単位は取れませんがキャリア支援行事として、キャリアセンター主催の講座を開催していますので、そちらも活用しながら、計画的に就活対策できるように考えてほしいです。また、他の学生委員から、キャリア教育科目やキャリア支援行事の案内が不十分なため、充実させたほうがよいという意見もありましたが、今年から文学部・教育学部・人間社会学部の在学生オリエンテーションや新入生オリエンテーションにキャリアセンター長と教職センターの教員で回り、キャリア教育科目及び教職支援科目や行事の案内を配付していますので、そちらも興味を持って見てほしいです。	キャリアセンター
	27	キャリアセンターは非常に親身になって話を聞いてくださり、親切に相談に乗ってくれるため、安心して利用できる場所だと感じています。	学生の皆さんにとって利用しやすい施設となれるよう引き続き努めていきます。	キャリアセンター
	28	私は現在3回生で、まだ本格的にキャリア支援を利用したことはありませんが、薬学棟では企業の方が説明に来られているのをよく見かけるので、就職活動に向けた支援がとても手厚い印象を持っています。	薬学研究棟1階ロビーにて行っている企業のブース出展は薬学部独自で行っています。キャリアセンターとしても今後も引き続きキャリア支援内容の充実に図っていきます。	キャリアセンター
自由記述	29	キャリア教育科目についての説明が不十分であると感じます。学部学科に関わらず1回生からしっかりと行って欲しい。	4月上旬のフレッシュャーズミーティングの時間内に、キャリアセンター長がキャリア教育科目の説明を行った上で履修推奨案内を配布して1回生の皆さんにもキャリア教育科目の重要性について理解が得られるよう努めていきます。	キャリアセンター
	30	キャリア支援を受けるにあたって、受けている人が少ないという傾向があるので、学生にもっと興味を持ってもらえるようなプログラムもあるとよいと思う。	キャリア支援センターや教職教育センターには、足が運びにくいといった意見が一部あることは認識していますが、キャリアセンターの相談員も教職センターの教員も、非常に親身になって対応してもらえるので、相談事が無くても怖がらずに訪ねてください。これまでも相談事がないと行きにくいといったような声も聞いたことがありますので、相談事が無くてもふらっと立ち寄れる雰囲気を作り、両センターに気軽に立ち寄れるような機会やプログラム、時間帯等を設けることも検討していきたいです。	キャリアセンター

【学生サービスについて】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q4 奨学金等の経済的な支援や課外活動における支援・指導は、適切であると感じていますか。経済的な支援や課外活動への支援等に関する印象や感じていることを教えてください。	31	学生サービスの支援は良いと感じる。先生や学生課から直接個人に連絡が入ることは比較的少人数の大学である良さが感じられる。	確実に奨学金を受給してもらえるよう、説明も工夫しています。口頭での説明が必要な状況も多数あることから、職員から学生の皆さんへの直接連絡も行っています。	学生部
	32	適切であると感じる。	評価してもらい、ありがとうございます。引き続き学生支援についてわかりやすい説明を行っていきます。	学生部
	33	学生課の職員の方がいつもわかりやすく教えてくれるので助かっている。ただ、奨学金の説明会等が、いつも授業と被っていて参加できない。学生課が作成した動画だけだと理解することが難しいこともあるので、説明会の日数を増やしてほしい。	奨学金については、制度が複雑なため、学生の皆さんへの説明会を基本的には実施しています。学生課で作成した動画も見てもらっているようですが、個別での対応も考慮しながら、説明会の回数については、今後、学生課としても検討していきたいです。もし分からないことがあれば、その都度で構いませんので、学生課窓口を訪ねるか、電話で確認してください。また、意見には無かった内容となりますが、課外活動については、学生課が運営しているキャンパスマガジン「凜ウェブ」において、各団体の活動を公開しています。「凜ウェブ」自体の周知は、まだまだ不十分ですので、学生の皆さんに見てもらえるように工夫をし、学生の皆さんと一緒に本学の課外活動を盛り上げていきたいと思います。	学生部
	34	特に思うことはない。	学生支援について、お気づきの点がありましたら、学生課へお知らせください。	学生部
	35	自分自身は奨学金を借りていないため、あまり経済的な支援・指導が適切であるかはわからないが、奨学金についての指導をする機会をしっかりと設けられているという印象がある。	No. 31で対応	学生部
	36	課外活動についてはあまり分からないが、奨学金の手続きを一緒にやってくれるのは非常に良い。	No. 31で対応	学生部
	37	奨学金などの経済的支援はあまり分からない。	学生課では、奨学金以外の学生生活についても支援を行っています。学生生活において不安や心配がありましたら、お知らせください。個人情報 は守秘します。	学生部
	38	奨学金に関する支援は適切であると感じています。特に、好成績を収めている部活動のチームに対する支援が手厚い印象があります。	評価してもらい、ありがとうございます。本学の課外活動団体数は多くはないのですが、団体ごとにながらんでいます。凜ウェブ（キャンパスWEB マガジン）の「凜トピックス」で各団体の活動を公開し、学生の皆さんの学生生活のいきいきした情報をお届けしています。奨学金・課外活動以外の学生生活についての相談も受け付けています。	学生部
	39	奨学金については、私自身も利用しており、経済的に非常に助かっています。申請や手続きも丁寧にサポートしていただけるので、制度として適切に整備されていると感じています。一方で、課外活動に関しては、薬学部はカリキュラムが忙しいこともあり、実際に活動している人の話をあまり聞く機会がありません。もし課外活動の内容や魅力が、学内でももう少し広く周知されれば、興味を持って参加する学生も増えるのではないかと感じました。	奨学金のサポートについて評価してもらい、ありがとうございます。学生生活に重要な経済的支援について、今後も情報収集・皆さんへの周知等、工夫していきたいと思います。もし、わからないことがあれば、その都度でかまいませんので、学生課窓口を訪ねるか電話で確認してください。担当者が説明します。課外活動については、凜ウェブ（キャンパスWEB マガジン）で「凜トピックス」で各団体の活動を公開しています。今後、今以上に凜ウェブは充実させていきたいと思っています。本学の課外活動については、学生の皆さんと一緒に、盛り上げていきたいので、協力してください。	学生部

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q5 保健室や学生相談室は、健康等に不安を感じたときに、それらは気軽に足を運べる場所となっていますか。保健室や学生相談室に関する印象や感じていることを教えてください。	40	保健室や学生相談室は自分自身はあまり利用したことが無いが友人はよく利用し、良い評判を聞いている。	体調不良やケガの時はもちろん、健康等に不安を感じた時には気軽に保健室を利用してください。必要と感じた時にいつでも利用してもらえるように、保健室の場所や開室時間等について、引き続き周知していきます。また、安心して利用してもらえるようこれからも丁寧な対応を心がけていきます。	保健室
			今年度前期は実人数で142人の方が学生相談室を利用しており、利用率は全学生の6.6%となります。これは全国の大学の学生相談室の利用率の平均（5.4%）と比べると、高い数値です。利用している学生の皆さんは、様々な内容（相談）で来室されています。もし、学生相談室で対応できない場合は、学内の対応できる部署や外部機関を案内しています。	学生相談室
	41	以前心に不安を感じて学生相談室に事前予約をせずいきなり相談に行った際であっても親身に対応していただいたため、とても好印象をもっています。	No. 40で対応	保健室
			相談は予約の方が優先ですが、随時、受け付けていますので、遠慮なく、来てください。もし、来室した際、予約の方と重なった場合は、都合を聞きながら、別日や別時間で予約を取ってもらっています。	学生相談室
	42	保健室は利用したことがない。	No. 40で対応	保健室
			学生相談室は学生の皆さんがよりより学生生活を送るために、様々なことを話したり、気軽に相談できる場所です。本学の学生であれば誰でも利用できますので、家族や友達、先生に相談をしにくいと思ったら、いつでも利用してください。	学生相談室
	43	保健室は場所は知っているが、使うことがあまりないので簡単に入れるとは感じない。学生相談室は一度入ったことがあるが、入ると大丈夫だが、入るまでに抵抗があった	No. 40で対応	保健室
			コロナ禍以降はドアを開けて入りやすくしたり、インターホンを導入したりしていますが、少しでも敷居が低くなるよう、入学時の学内ツアーでカウンセラーの顔を知ってもらったり、学生相談室からのお知らせを学内掲示やHPへの掲載、メール送信などで案内し、敷居が低くなるように努めたいと思います。	学生相談室
	44	自分自身が利用したことはないが、不安を感じた際に気軽に利用している学生をよく見かける印象があるため、気軽に足を運べる場所となっていると考えられる。	No. 40で対応	保健室
			No40で対応	学生相談室
	45	利用したことはないが、通いやすい場所だと考えている。	No. 40で対応	保健室
			No40で対応	学生相談室
	46	保健室に行く機会が無いが、保健室に行くなら病院に行きたいと思う。	保健室は各種健康診断の実施、保健指導、ケガや病気の応急手当だけでなく学生のみなさん個々の健康問題に関する相談も受け付けています。健康等に不安を感じた時には気軽に利用してください。	保健室
			No42で対応	学生相談室
	47	保健室や学生相談室は、健康に不安を感じたときに気軽に利用できる場所となっているが、場所が少し分かりにくいと感じることがある。	保健室は、各種健康診断の実施や保健指導、怪我や病気の応急手当だけでなく、学生の皆さん個々の健康問題に関する相談も受け付けています。保健室の場所については、分かりにくいとの意見を以前から聞いていて、学生課としては、保健室の場所や利用方法、対応内容を記載した「保健室のご案内」というリーフレットを令和4年度より新入生全員に配付し、学内の掲示板へのポスター掲示も定期的に行っています。学生の皆さんが気軽に利用できるよう、周知方法についてもさらに検討していきたいと思います。 学生相談室については、学生の皆さんの心理的サポートを行っています。こちらでも学生の皆さんからの意見を受けて、学生相談室を利用したいと思ったときに気軽に利用しやすくなるように、令和5年度以降、新入生対象の学内ツアー時に学生相談室にも立ち寄ってもらえるようにして、来年度以降もこの取組は続けていきたいと思っています。 また、毎月「こころ、ほっこりー学生相談室だよりー」をメール配信していて、学生の皆さんの心の健康に関する情報を発信していますので、学生生活に役立ててほしいです。保健室同様、利用しやすい環境整備を今後も行っていきたいと思います。	学生部
	48	保健室や学生相談室については、私はこれまで利用する機会がありませんでしたが、学内での掲示やガイダンスなどを通じて存在を認識しており、いざというときに利用しやすい雰囲気があると感じています。	No. 40で対応	保健室
			引き続き、学生相談室からお知らせ等を学内掲示やHP掲載、メールで送信したり、資料を配付したりして、学生相談室を周知し、学生の皆さんが利用しやすくなるよう努めたいと思います。	学生相談室
自由記述	その他、学生サービスについて、気づいた点等があれば記入してください。	PDF資料の10ページ下（令和5年度自己点検評価書P20）の学生支援組織として紹介されている国際交流室は、英語教育センターと合併して今はないと思う。私は国際教育交流センターのサポート学生であるが、イベントの際、大学関係者の方でも何の組織か分かってもらえなかったことがあり、少し残念に感じた。	国際交流室と英語教育センターは、事務組織的には合併し、国際教育交流センター（GLEX / Global Learning Exchange Center）となっていますが、国際交流室の機能は存続し、事務組織のスタッフも常駐して以前と変わらず活動していますので、利用してください。また、国際交流に関わるサポート学生の皆さんには、イベント等の活動にも参加してもらっていて、その活動内容については、大学ホームページ等でも紹介してはいるものの、まだまだ学内への周知は不十分なところがあります。今後はさらにサポート学生の皆さんとの連携を強化するとともに、大学内外への周知も行っていくしますので、引き続き、さまざまな活動へのサポートに協力してください。	国際教育交流センター

【学修環境の整備について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q6 校舎、図書館、体育施設、情報処理施設、休憩スペース等は、適切に整備され、利用しやすい快適な教育研究環境になっていると思いますか。教育研究環境に関する印象や感じていることを教えてください。	50	学修環境の整備は適切で利用しやすいと感じる。志学館1階の電球が切れているものがあることが気になる。少し暗い。	総務課施設係に連絡して確認し、対処します。	学長 (局長)
	51	適切に整備されていると感じるが、購買において夏場は販売されているチョコやキャンディなどが溶けていることがあり、品質が悪い。	給品部へ改善するよう伝えます。	学長 (局長)
	52	適切に整備され、利用しやすい快適な教育研究環境になっていると思う。外見は古い感じがするけれど、中はちゃんと整備されているし、快適である。	ありがとうございます。これからも快適で適切な教育研究環境の構築を目指します。	学長 (局長)
	53	特に不便を感じることはない。ただ、移動の通ridoの運動場前にある喫煙所は匂いを我慢して通らなければいけなかったり、ヒトが喫煙所外で煙草を吸っていて気分が良くないのでうにかしてほしい。	喫煙については、周りの人に不快な印象を与えないように、マナー向上のための注意喚起の掲示や貼り紙等を検討したいと思います。	学長 (局長)
	54	校舎や食堂としては、過ごしやすい環境になっていると思われる。自習をしたり、空き時間に利用しやすい環境となっていると思う。	No. 52で対応	学長 (局長)
	55	2つの体育館（第2体育館／第3体育館）について、空調設備の面において差があると感じている。例えば、体育の必修科目で利用するとき、授業の半分は第2体育館で実施、もう半分は第3体育館で実施というように、どちらか一方の体育館だけに片寄らないように調整してほしい。 食堂については、座席が少ないと思う。特に、昼休みと重なると利用者も増え、食堂でご飯を食べられない学生もいる。できれば、休憩スペースとして他の場所を設けてほしい。また、カップラーメンの自販機の給湯部分が故障しているので、修理してほしい。	【体育館について】 空調設備があるのは第3体育館だけということもあり、おそらく学生の皆さんは第2体育館との環境の差があると感じていると思います。空調に関しては命にも関わってくることで、我々も決して軽視している訳ではありませんが、体育館に空調を付けるためには多額の費用が掛かってしまうため、すぐには対応できず、大変申し訳なく思っています。なお、体育館の交代利用については、教務課及び教務委員会と相談したいと思います。	学長
			【食堂について】 食堂の座席については、どうしても昼休みの短い時間に利用者が集中し、足りなくなってしまうようですので、他の場所を提供することも含めて、何かしらの対応ができないか検討したいと思います。	事務局長
			【体育館について】 体育館の暑さについては、冷風機を入れることも含めて対策を講じる必要がありますので、予算が掛かる内容ではありますが、前向きに検討していきたいと思います。また、体育館を利用する科目の時間割は、体育施設の器具の関係も踏まえて考えていますので、そのあたりも含めて対応することができないか教務課と相談したいと思います。 【食堂について】 そもそも食堂の数が減っていることもあり、学生の皆さんには迷惑をかけていて申し訳なく思っています。他大学においても食堂の利用が集中する時間帯には同様の問題が生じていて、食堂を利用する人を優先してもらうよう放送を流したりしているようです。本学においても、他大学を参考にしながら対策を講じていきたいと思います。 【自販機の故障について】 自販機の修理依頼をかけたものの、購入者が少ないこともあり、請け負ってもらえなかったことから、別途、大学でお湯を用意することを検討しているところです。ただ、衛生面及び安全面において、きちんと管理しなければならず、また、熱い温度のお湯を用意する必要があることから、すぐに対応することができていない状況です。対応方法については食堂とも相談しながら、前向きに検討していきたいと思います。	
	56	すごく利用しやすい。図書館は机も沢山あるので集中できる。	No. 52で対応	学長 (局長)
	57	ほとんどの施設は整っており、快適に利用できると感じています。ただし、体育館に冷暖房が設置されておらず、雨漏りがすることもあるため、その点は改善が必要だと思います。	空調に関しては命にも関わることで、我々も決して軽視している訳ではありませんが、体育館に空調を付けるためには多額の費用が掛かってしまうため、すぐには対応できず、大変申し訳なく思っています。雨漏りについては、確認の上、対処を検討します。	学長 (局長)
	58	普段から薬学棟の自習スペースや自習室を利用しているが、とても助かっている。ただ、テスト期間になると廊下の自習スペースが埋まってしまうことも多く、もう少し机が増えたとありがたいと感じている。また、自習室に関しても現在は大人数用の長机が中心であるが、塾のように一人ひとりが区切られたブース形式の自習スペースがあれば、より集中しやすい環境になるのではないかと思います。	長机を一部ブース形式にすることについては、コロナ対策のときに購入した衝立を活用することで、対応できるかもしれません。	学長
			長机を衝立で区切るだけでよければ、以前にもそのようなことをやっていたこともあり、用意できると思います。特に、試験期間中やその直前は、個人スペースを確保できるように検討していきたいと思います。そのほか、図書館には個人用の机も設置されているので、そちらも利用してください。	薬学部 (薬学科)
自由記述	59	食堂の空いている時間が少し短いと感じる。授業が長引くことや教室との距離などで少し遅くなった時に既に閉まっており、コンビニなども近くにないため食事に困ってしまう。また、メニューも十分な数が用意されていないのか1つしかないこともある。WiFiの完備は良いが少し不安定。	時間に関しては、開けている以上は人を配置する必要があり、すぐに対応できるか判りません。メニューが十分に用意されていないという指摘は、食材を余らせて無駄にしないようにするためと思われます。業者と相談してみます。Wi-Fiについては、場所によって不安定なところがあり、順次整備を進めているところです。	学長 (局長)
	60	空きコマに勉強をしたいとき、食堂は騒がしいので空き教室を使うことが多いが、教室を使用しているのかどうか分らず、授業中にドアを開けてしまい迷惑をかけてしまうこともある。使用中かどうか分かる「札」があれば、授業の邪魔になることも防げるし、空きコマに空き教室を積極的に利用することができるようになると思う。	教務課では、各教室に札を用意することは難しいですが、教室の使用状況について、何らかの方法で学生の皆さんに周知することができないか、検討しているところです。決まり次第、学生の皆さんへ周知したいと思っていますので、もう少し待っていてください。	教務部
			空き教室を利用しても構いませんが、ラーニングコモンズも設置しているので、ぜひ活用してください。	学長
	61	体育館の熱さによって熱中症になる人が増えるのではないかと思います。また、雨漏りをしている教室や体育館があるため、校舎内の空調関係や、雨漏りなどの対策をする必要があると思う。	No. 57で対応	学長 (局長)

【学生の意見・要望への対応について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q7 学生による授業評価アンケートや学修行動調査等の結果は、学修支援や学生生活、学修環境の改善に反映されていると思いますか。アンケートや調査等に関する印象や感じていることを教えてください。	62	先生によって異なると思う。	教員によって異なるという点を感じるのであれば、学生からの意見を反映するような教育改善を促進するようなFD研修（教育力を向上するための研修）を検討します。	教育・学修支援センター
	63	反映されていると思う。	反映されているとの評価をしてもらい、ありがとうございます。授業評価や学修行動調査の結果等について情報を入手し、実際に自身が授業を受講して実感したものだと思います。ホームページや学内において、学生の皆さんからの協力による各種調査結果へのリンクが貼られていますので、多くの方々からの閲覧をお願いします。	教育・学修支援センター
	64	反映されているのか分らない。	授業評価アンケートに回答するのが授業終了前後であり、教員が結果を知るのは授業終了後になってしまうので、改善がなされたかどうかは、その授業を再履修しない限りわからないのは当然のことと思います。ただ、授業評価アンケートの集計結果や教員による改善計画は学内で公表されていますので、受講前にそちらを見て、授業の評価をしてもらえればと思います。	教育・学修支援センター
	65	感じない。	感じないという点については遺憾に思います。学生からの意見を反映するような教育改善を促進するようなFD研修（教育力を向上するための研修）を検討します。	教育・学修支援センター
	66	学生による授業評価アンケートや学修行動調査の結果が反映されているかは、あまり分らない。また、現在、授業評価アンケートは、アクティブアカデミーで回答する方法で行われているが、教員から口頭で依頼があっても、きちんと回答している学生は少ないのではないと思われる。そのため、アクティブアカデミーでアンケートをとるのではなく、授業内で以前と同じように紙媒体でアンケートをとるか、グーグルフォームや学生がよく利用するtani-WAを使用して、その授業内でするほうがよいと思う。	<p>【アクティブアカデミーによるアンケートについて】</p> <p>他の学生委員からも、tani-WAのほうが使いやすいとの意見があり、こちらもそれは十分認識しています。それぞれの学習支援システムは、その目的に応じて使い分けていて、アクティブアカデミーで実施している授業評価アンケートをtani-WAで実施することも可能ではあるものの、多額の費用が発生するオプション機能を付ける必要があることから、基本的にその機能が備わっているアクティブアカデミーを採用しています。なお、アクティブアカデミーは、使いにくさというよりかは、アクセスしにくいというところがあるのかもしれませんが、履修登録や成績を確認するときには、よく利用するシステムですので、活用してください。</p> <p>【紙媒体でのアンケートについて】</p> <p>Webでのアンケートから紙媒体に戻すことで、まず、アンケート用紙自体の費用がかかり、さらに、回答をデータ化するところでも費用が発生してしまうことから、現状ではWebでの回答に協力してもらいたいと思います。</p> <p>【アンケートの実施方法について】</p> <p>授業時間内であれば、多くの学生がその授業に参加しているので、回答率を高めることもできます。現在、回答率が少し低いことが問題視されていることもあり、その点においても授業内で回答を促すということとは有効な方法だと思います。ただ、厳密に言えば、授業時間というのは、学修する時間であり、学生の学修のために費やすという大原則から考えると、アンケートは学修以外の部分で行うべきであるという考え方もあります。そのため、授業時間内での回答については、教育・学修支援センターからは調整しづらい状況ではありますが、回答率を高めること、回答の質を上げることについては、大きな課題でもありますので、何らかの方策を考えていきたいと思います。</p>	教育・学修支援センター
	67	あまり改善されていると感じない。そもそもアンケートをする人が少なすぎると思う。又、履修登録が前期後期セットで登録しないといけないため、後期まで考えるのが難しい。夏休み期間のうちですお後期の履修登録を決められるようにしてほしい。	<p>指摘の通り、授業評価アンケートに対する回答率が低い点については、問題であると感じています。授業時間での回答を促すように働きかけているところでもあります。</p> <p>後期の履修登録に関する指摘については、可能な限り前期の授業開始前に1年間の学修計画を立てて履修登録を行い、前期の学修状況に応じて変更が必要になった場合にのみ、後期の追加登録期間に履修登録の追加を行うような形で調整をしてもらえればと思います。</p>	教育・学修支援センター
自由記述	68	同じ教員であっても、前期の授業は取っても後期の別の授業は取らない場合もあるし、学年が上がることによって同じ授業を取ることもないとなると、授業が終了してしまうと関わらない教員もいるので、アンケートに書いても実際にその結果が反映されているののかが分かりづらい。	授業評価アンケートについては、回答者が特定されないように細心の注意を払っていて、アクティブアカデミーでの回答も、教員は誰がどう答えたか一切分からない仕組みで、その集計結果だけが知らされることになっています。なお、受講者数が少ない科目は、1人の意見が集計結果に大きく影響を及ぼしてしまうこともあって（特に自由記述欄）、それによって教員と学生の皆さんとの関係がおかしくなるようなことを避けるために、アンケート対象外としています。ただ、それ以外については、一律授業評価アンケートは実施していますので、アンケートを実施していないという場合は、受講数との兼ね合いだと考えられます。また、同じ授業、同じ教員の授業を取ることがないので、結果がどうなっているのか分かりづらいということについては、こちらも認識しています。アンケートの集計結果を分析して改善計画を立てるということを毎回行って、授業改善に取り組んではいるものの、それがどういうふうに反映されているかということについては、学生の皆さんには分かりづらくないかもしれません。例えば、同じ教員の違う授業を受ける機会があれば、話し方や説明の仕方が分かりやすくなっているといったようなところで、改善されたかどうか判断してもらいたいと思います。	教育・学修支援センター
	69	授業評価アンケートなどは実施されているものの、実際にはあまり反映されていないと感じるため、形骸化している印象があります。	学生からの意見を反映するような教育改善を促進するようなFD研修（教育力を向上するための研修）を検討します。	教育・学修支援センター
	70	授業アンケートについては、特に意識されている先生は、学生の意見をどんどん取り入れて授業の進め方や内容を改善してくださっていて、とてもありがたく感じています。また、学修行動調査に関しても、たとえば学内のコンビニがなくなった後におにぎりの販売が始まるなど、学生の声が実際に反映されている事例があり、大学側がきちんと学生の意見を受け止めてくださっている印象を持っています。	授業評価アンケートや学修行動調査の結果と、それに対する大学への対応について、理解を示してもらい、ありがとうございます。すべての学生からの要望や苦情に応えることは難しいですが、多くの学生にとって望まれる改善や緊急性の高い対応については、大学でも優先順位を上げて取り組んでいます。	教育・学修支援センター
自由記述	71	帰宅時の電車の中でもできる量（授業の振り返り程度）の課題の教員もいれば、徹夜しない間に合わないくらいの量の課題を出す教員もいるので、できれば、平均的に同じくらいの量にしてほしい。	徹夜しなければこなせないような課題量があるということは、会議に出席している教員をはじめ、教育学部においても共有しておきたいと思います。オンデマンド授業に関しては、動画の長さや課題の量については、教員間である程度共有しているところはありますが、対面授業においては、講義、演習、実験・実習というように授業の形態が異なり、また、単位数も違うため、授業担当者がその単位数を取得するために必要な課題として、学生の皆さんに提示しているのではないかと推測することができません。そのため、課題量を一律同じ程度にするということが難しいということは、理解してほしいと思います。	教育学部（教育学科）

【単位認定、卒業認定、修了認定について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q8 シラバスに記載されている評価基準等については、わかりやすく、適切に定められていると思いますか。評価基準等に関する印象や感じていることを教えてください。	72	評価基準はしっかりと明記されてわかりやすいが授業によってはシラバスと変更があったり、評価の基準が異なるため一概にはいえない。 成績の内訳や具体的な点数が分からない点が気になる。	シラバスの評価基準と実際の評価を一致させるように努めるとともに、シラバスの記載から変更がある場合には、履修者に不利益がないように、周知を図り、安心して履修できるようにしていきます。不明な点に関しては、授業担当者に尋ねてもらえれば説明します。	教務部
	73	適切に定められていると感じる。	シラバスによく目を通し、学修の見通しや確認に活用してもらい、ありがとうございます。引き続き、わかりやすく活用しやすいシラバスになるように作成していきます。	教務部
	74	わかりやすい。困ったときはシラバスを見るようにしている。	No. 73で対応	教務部
	75	評価が返ってきたときに、授業で寝ている学生のほうが評価が高かったり、テストの点数を見て、どうしてこういう評価になったのか、疑問に思う評価が多くあった。先生に質問に行っても疑問は解消されず、シラバスでどのような基準であるのか確認しても、なぜこのような評価になったのかよく分からず、疑問に思っていることがある。	学生の皆さんにとって単位認定は非常に重要なことですので、不利益感を感じたことにまずお詫びしたいと思います。また、今回の意見をもとに、全教員に必ず公平な評価、きちんと説明のできる評価をすることを徹底していきたいと思います。 各教員にはそれぞれシラバスに明記した基準があります。もちろん、平常点を重視する教員や最終的な評価に、ある程度の重きを置く教員もいますので、それによっては逆転現象と感じられるものが起こったのかもしれない。改めて各教員の評価基準が妥当かどうかということも検討して、学生の皆さんに不利益感を感じないようにしていきたいと思います。 授業での態度というのは非常に重要なことですし、真摯な態度で学んでいる学生の皆さんにとっては、寝ている学生のほうが評価が高いと不利益感とを感じるのは、その通りだと思います。望ましい授業環境や授業実施にも努めていきますが、大学という場所は、授業態度だけではなく、最終の到達も含めての評価となることから、頑張っ授業についてきていても、テストで少し書けない部分があったりすることで評価が下がることもあるということも、理解してください。適切な授業実施、全員が到達目標に達することができるような指導方法に関して改善していくとともに、できるだけ不利益感を感じることをない評価にしていくよう、全教員で検討していきたいと思います。	教務部
	76	適切に定められていると思う。 評価基準や割合などを明確にわかることでどのくらい課題が大切なのか、テストはどのくらい反映されるのかをしっかりと理解することで成績を高めることにつながると思う。 しかし、書いてある文章が難しいと感じることもあるという印象でもある。	シラバスによく目を通し、学修の見通しや確認に活用してもらい、ありがとうございます。「文章がわかりにくいと感じることもある」という意見をふまえ、引き続き、わかりやすく活用しやすいシラバスになるように作成していきます。	教務部
	77	たまにシラバスに書いてあることと違う授業があるので、そこは改善してほしい。	シラバスと実際の授業内容を一致させるように努めるとともに、シラバスから変更がある場合には、履修者に不利益がないように、周知を図り、安心して履修できるようにしていきます。	教務部
	78	よくわかると感じる。	No. 73で対応	教務部
	79	シラバスに記載されている評価基準は、分かりやすく記載されていると感じます。	No. 73で対応	教務部
	80	シラバスには、授業を通してどのようなことを習得すれば単位が認定されるのかが明確に示されており、テストやレポートの配分なども分かりやすく記載されていると感じています。特に評価基準が具体的に書かれているため、自分の学修の方向性を確認しながら授業に取り組むことができ、内容としても適切だと思います。	No. 73で対応	教務部
自由記述	81	今年履修登録をする際に卒業単位の計算をしてみたところ、アクティブアカデミーで確認できる成績の単位数が、実際に取得している単位数と表示されている単位数が異なっていた。同じ専攻の学生にも確認したが、計算が合っている学生もいれば、そうでない学生もいて、気になっている。	教務課でも確認作業も始めていて、システム上同じデータを使っていますので、単位数が異なるということはないはずですが、間違いがあるようであれば重大なことであるので、すぐに対応したいと思います。ただ、考えられる要因としては、キャリア教育科目の扱いの部分です。キャリア教育科目は、各学科で最終的に共通教育科目に単位がカウントされるということがあり、表記の上では、キャリア教育科目になっているけれども、卒業単位にカウントされている場合があります。それによって見た目上、単位が合わないということで、よく相談にきています。不足単位と自分が取っている自覚のある科目が違うという場合に、もしかすると、共通教育科目のなかに、枠（表記）は違っているけれども、キャリア教育科目にカウントされているということがあるかもしれませんが、そちらも一度確認してもらいたいです。あわせて、間違いがあってはいけませんので、教務課へも成績通知書を持ってきてもらって確認をさせてほしいと思います。また、学生委員の皆さんや皆さんの周りの方で、もし、表記が違っていたり、取得単位数が違っていたりした場合には、確認の作業や説明もしますので、心配せずに教務課へ相談に来てください。	教務部

【教育課程及び教授方法について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q9 各学科のカリキュラムについては、学びたい科目が設定されていますか。カリキュラムに関する印象や感じていることを教えてください。	82	共通教育科目が少ない。授業のかぶりがある。	共通教育科目に関しては、開講科目、時間割編成について毎年見直しを行っています。できるだけ履修しやすいように重複には気をつけて編成していますが、6限めに設定しているオンデマンド実施の科目については、同時限に複数の科目を設置することもあり、履修を希望する科目が重複した可能性があります。意見を参考に、分野等も考慮し、履修しやすい時間割編成を行っていきます。	教務部
	83	設定されていると感じる。	5つの基幹コースと3つの選択コースを中心に、歴史と文化を様々な角度から学び、深められようなカリキュラムとなるよう心がけましたので、学びたい科目が設定されていると認めてもらい嬉しく思います。科目同士は緊密に関連していますので、受講を通じて、隣接分野にも関心を広げていってほしいと思います。	文学部 (歴史文化学科)
	84	設定されていると思う。	カリキュラムに学びたい科目が設定されているとの意見、ありがとうございました。	教育学部 (教育学科)
	85	設定されている。専門の知識だけではなく、教員になる過程で必要になることも教えていただけるのでありがたい。	カリキュラムでの科目の設定に加え、教員養成課程の点からも意見いただき、ありがとうございました。	教育学部 (教育学科)
	86	設定されている。 1、2回生で基礎知識を身につけて、模擬授業やインターンシップなどで実践的な体験をする機会が多い。 しかし、特別支援学校を希望する学生の実習期間が2週間というところが少し引っかかる印象である。 指導案のことをもっと深ぼることのできる授業があればもっといいと思う。	カリキュラムに学びたい科目が設定されているとの意見、ありがとうございました。実習期間については文部科学省で時間数が定められています。実習以外にて子どもと関わる経験ができる活動もありますので、是非参加ください。	教育学部 (教育学科)
	87	2回生までは自由に好きな科目を取ることができていたが、3回生になって興味のある科目があったので確認すると、2回生しか取れない科目であった。2回生のときに見たときは、そのようなことは書いていなかったと思うが、3回生で取ることが出来なくて少し残念であった。また、教職を目指している学生から、もっと教員採用試験対策の講義を作ってほしいとの意見を聴いた。3回生の6月に試験があるのに、あまり授業がないため、自力で1から勉強しなければならず、その期間が長すぎて困っているようである。	【2回生配当の授業について】 2回生配当の授業であっても、原則、3回生、4回生でも取ることができま すので、もしかしたら、カリキュラムが違うのかもしれませんが。令和6年度から人間社会学部に心理・福祉学科が新設されたことに伴い、現3回生と現2回生の学年とでは、大幅にカリキュラムが変わっています。そのため、新しいカリキュラムの現2回生以下にしか取れない授業がいくつかあります。それを時間割表やシラバス等で見て面白そうだと思 いながらも、履修登録の画面で選択肢がなかったのではないのでしょうか。この件に関しては、やむを得ない事情となっているということを理解してほしいと思います。 【教員採用試験対策について】 教職を目指している友達の意見も聞き取り、この場で披露してもらえるのは、大変ありがたいことです。 教員採用試験対策の授業もありますが、もしかしたら、学生の皆さんにとっては、少し見えにくいようなかたちになっているのかもしれま せん。また、授業以外の教員採用試験に関する支援としては、教職教育センターで教員採用試験対策の行事をたくさん行っていますので、是非とも利用してください。	人間社会学部 (人間社会学科)
			1回生から教員採用試験関係の科目として、すでに設置はしているけれども、なかなかそれが教員採用試験につながるということが、1回生のときには感じにくい部分があって、後で取ればよかったなということもあるかもしれません。教員採用試験を考えている学生の皆さんには、早い時期からその科目ををできるだけ勧めていこうにしていきたいと思 います。	教務部
			教職教育センターでは、1回生からの「教職総合ベーシック」や教職対策講座、インターンシップ等も含めて勧めています。また、キャリア支援の項目でも説明したとおり、今年度から文学部・教育学部・人間社会学部の在校生オリエンテーションや新入生オリエンテーションにおいて、キャリア教育科目の説明と併せて、キャリアセンター長と教職センターの教員とで一緒に回り、教員免許状が取れる学科では、教員採用試験対策について一貫性をもって行っていることをPRすることで、興味を持ってもらえるよう取り組んでいるところです。	キャリアセンター
	88	学びたい科目が設定されておりオンデマンドを含めると様々な学問を知るきっかけがあると 感じる。	カリキュラムを十分に理解し、興味を持って授業を履修している様子が窺えます。カリキュラムは学生の皆さん方の興味・関心に応えつつ、ディプロマ・ポリシーに定める様々な能力を獲得できるように組んでいますので、それまでに自身が獲得した能力、今後伸ばしていきたい能力を考慮した上で、履修登録を行なってもらえればと思います。	人間社会学部 (心理・福祉学科)
	89	学科のカリキュラムは体系的に組まれていて、基礎から応用まで段階的に専門的な知識を身につけられると感じています。特に、座学だけでなく実習やフィールドワークを通して学べる授業も多く、スポーツや健康に関する理解を深めやすいです。学びたい内容がしっかり用意されているため、目的意識を持って取り組める点が魅力だと思います。	現行のカリキュラムへの学生からの高い評価は、有難いです。スポーツ健康学科は、さらに魅力的なカリキュラムの実現をめざして、今後も改善していきます。	人間社会学部 (スポーツ健康学科)
	90	薬学部のカリキュラムについては、薬剤師になるために必要な知識や技能を身につけられる授業がしっかりと組み込まれており、実践的であると感じています。 また、サプリメントアドバイザーの資格取得を目指す授業があるのも良い点だと思います。 一方で、薬剤師に関係する資格は他にも多数あり、例えば漢方アドバイザーなど、より幅広い分野に対応した資格取得に向けた選択肢があれば、将来の進路の幅が広がってより良いと感じました。	カリキュラムについては最適なものとなるように常に見直しをしています。が、学生目線から特に問題ないという意見をもらうことができ、良かったと思います。薬剤師以外の関連資格取得のための授業についても評価してもらいうれしく思います。栄養関係以外の資格に関するものについては、今後検討していきたいと思います。	薬学部 (薬学科)

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q10 授業内容・方法は、きめ細やかな少人数教育を行ったり、学生参加型のアクティブ・ラーニング（グループワークやディスカッション等）を活用する等、工夫をこらしたものとなっていると思いますか。授業内容・方法に関する印象や感じていることを教えてください。	91	授業による。とてもいい授業もあれば、ただ座っているだけの授業もある。	日本語日本文学科でも、アクティブ・ラーニングは推奨されており、多くの授業で採用されている、と思います。ただ、教員の方針や授業の性格によって、従来の座学が重視される場合があるでしょう。「ただ座ってるだけ」とのことですが、そのあたりの点も考えて受講して見てください。そのうえで、要望を出すのは良いことだと思います。	文学部（日本語日本文学科）
	92	授業毎に、さまざまな工夫がこらされていて、かなり学びやすい雰囲気が作られている。	歴史文化学科の学生さんなので、主に歴史文化学科の授業のことであると思いますが、一定の評価をしてもらっていてありがたいと思います。その一方で、日本語日本文学科の学生委員からは「ただ座っているだけの授業もある」という意見もあります。アクティブ・ラーニング的な要素をどの程度取り入れるのかというのは、各教員いろいろと頭を悩ませているところだと思います。例えば、テーマを限定した特殊講義的な授業であれば、そのあたりの自由度も高いですが、一方では、概説的な授業とか通史的な授業であると、扱っている時代や地域も非常に膨大になるので、なかなかアクティブ・ラーニング的なものを取り入れる余裕がないということは実際あります。それぞれ授業の特性もありますので、一律には言えないかとは思いますが、ただ聞くだけの授業というのではなく、さらに工夫していきたいと思います。	文学部（歴史文化学科）
	93	グループワークの授業が多い印象である。教員と学生が対話する授業が多い印象である。	アクティブ・ラーニングが多く取り入れられているという意見をもらい、嬉しく思います。今後も授業方法の改善に努めます。	教育学部（教育学科）
	94	思う教科もある。色んな体験をさせてくれる教科もある一方で、一方的に教員の話で90分間く授業もある。そういう授業はどうして受けているのか意図が分からなくなる。	貴重な意見ありがとうございます。教員として必要な知識を伝えなければならぬ授業内容もあり、講義型で行う授業も必要であることを理解してください。	教育学部（教育学科）
	95	グループワークやディスカッションをする授業はとても多い印象がある。また、発表の得意な人ばかりが他者へ説明するのではなく、そのグループの中で役割を決めて意見を言うことが苦手な人でも意見を言う機会を多くする授業が多い印象がある。他者へ意見を共有する機会も多い印象がある。	アクティブ・ラーニングが多く取り入れられているという意見をもらい、嬉しく思います。意見のとおり、保育者・教育者を養成する学部であるからこそ、意見交換する機会を大切にしていきたいと考えています。	教育学部（教育学科）
	96	そこに関しては徹底してて、素晴らしいと思う。一部の授業以外は、特に感じることはない。	本学科では、課題発見・解決演習など、長く開講してきた科目に加え、最近ではPBL入門という科目を1回生必修にするなど、アクティブな学びを主流化するよう努めてきました。今回、得られた学生からの評価を踏まえ、今後とも、こうしたアクティブな学びの機会を提供しつつけるとともに、さらに効果の高いものにすることができないか、検討をしています。	人間社会学部（人間社会学科）
	97	講義だけの授業もあるが演習系の科目では積極的にアクティブラーニングが行われていると感じる。	授業の内容や性質によってアクティブ・ラーニングが効果的なものと、必ずしもそうとは言えないものがあります。ただ、講義のみの授業であっても、アクティブ・ラーニングを促すような方法を取り入れた方がよいと感じた場合は、担当教員に申し出るか、授業評価アンケート等でその旨の記載をするようお願いします。	人間社会学部（心理・福祉学科）
	98	授業の進め方は教員によって大きく異なるため、分かりやすい授業とそうでない授業の差が大きいと感じます。	貴重な指摘をありがとうございます。現在スポーツ健康学科では、教員が相互に授業に参加し合い学ぶなど、授業改善に向けた努力をしています。今後はさらに、FD（研修）なども活用し、学科教員全員がわかりやすい授業を実施できるよう努力していきます。	人間社会学部（スポーツ健康学科）
	99	授業では、1回生の頃からグループワークを取り入れた発表や話し合いの機会が頻繁にあります。最初は緊張することもありましたが、繰り返すうちにグループ内で発言することに慣れ、自分の考えを伝えることに抵抗がなくなってきたと感じています。また、SAセミナーなどに代表される少人数での授業もあり、教員との距離が近く、しっかりと学習に取り組める手厚い環境が整っていると思います。	薬学部では、その学問の特性上どうしても講義中心の授業となりますが、薬剤師には様々なコミュニケーション能力も必要となることから可能な限りグループワークや少人数でのディスカッションを授業に取り入れるように努めています。その効果が実感できているという意見をもらいうれしく思います。また、SAセミナーを含め、教員の個別対応等、きめ細やかな学修指導についても引き続き努めていきたいと思っています。	薬学部（薬学科）
自由記述	100	専門的な授業や資格などに関わる授業が多いが、理解能力は個人差があるため卒業単位も含めた履修登録について、もう少し説明が必要なのではないだろうか。2回生以降は長期休暇に履修登録があるが、長期休暇前にも相談できるタイミングはあるものの、遠方から来ている学生は実家に帰省していることもあり、そのタイミングを活用できず、相談などもしづらいように感じる。	【履修相談について】 特に1回生のときは、フレッシュャーズミーティング等で丁寧に履修相談をしていたことと比べると、2回生・3回生では、複雑になるにもかかわらず、自分で考えて履修登録をすることになり、戸惑うことが多いということを改めて聞くことができました。オリエンテーションや各学科での相談も含めて、どういう科目をどのように履修していくことで自分の思いが叶っていくのか、もし取りたい科目が重なった場合、どうしたらいいのか等、一人ひとりの悩みに丁寧に答える体制を取っていきたいと思います。特に、在学生のオリエンテーションが3月末にあり、相談しにくい状況となっているということであるので、本日出席している各学部長には、アドバイザー教員・ゼミ担当教員を中心に履修登録までの期間の相談体制を作るよう検討してほしいと思います。 【アクティブ・ラーニングについて】 学生の皆さんがアクティブ・ラーニング、あるいは学生参加型の授業を求めている、そこで達成感を得ているということを感じることができました。本学では、講義や演習等、授業の内容や専門性によって比重は違っても、アクティブ・ラーニングをどの授業でも取り入れるべく各教員へ依頼し、かなりその比率は上がってきています。学生同士の話し合いという場合もあれば、プレゼンテーションを中心に行う等、様式や形式はさまざまですが、全教員ができるだけ努力をして、アクティブ・ラーニングや学生参加型の授業作りに全学で取り組んでいるところであり、それぞれの専門性はあっても、学生の皆さんに満足感・達成感を持ってもらえるような授業を作っていきたいと思っています。	教務部
	101	岩井先生の授業では、TAを募って授業をしていた。しかし、大人数だと自分はいなくても誰かがするだろうという意見の人もいたと思われる。授業技術基礎では班でTAを回していたため、みんなが同じ量ですることが出来ていたと思う。その為、本来が自主的に参加を皆がするのがいいと思うが、当番制にして皆が経験をするという機会があることも重要だと思う。	具体的な意見をもらい、ありがとうございます。教える側を経験する機会を設けている授業かと思しますので、ご提案内容を共有して、今後改善に努めます。	教育学部（教育学科）

【上記以外の学生委員からの意見】				
	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
	A	課外活動の練習場所について 男子バスケットボール部に所属している。メインで使用している第2体育館には空調がないが、体育館の空調の設置には、多額の費用が掛かり、すぐに環境を整えることが難しいということについては、先ほど説明を受けたので、十分に理解している。ただ、空調のある第3体育館について、女子バレーボール部と女子バスケットボール部が中心に使用しているが、どのような理由で第3体育館を割り当てられているのか知りたい。	意図的に割り当てをしているわけではありませんが、改めて体育館の利用方法については、検討する必要があるのではないかと考えられます。あわせて、本会議でも体育館の割り当てに関する意見があったということ踏まえて、学生課やスポーツ支援センターにおいて、前向きに考えていきたいと思います。	学生部
	B	授業1コマあたりの時間について(提案) 現在、1コマ90分授業であるが、他大学でも取り入れているように、1コマ105分にし、15回ある授業を13回に抑えることで、長期休暇のスタートが2週間早くできる。その分を活用して、インターンシップや集中講義、その他の時間として有効に使うことができれば面白そうなので、提案をしたい。	他大学では1コマ90分以外の授業時間に設定をし、各授業科目の授業期間を13週等に抑えることで、その空いた期間に学外も含めて他の学びができるようにしていることについては、本学でも情報を収集していて、それらの検討を本格的に始めていこうと思っているところです。なお、本学では、それぞれの学部・学科、そして免許や資格の希望によって、かなり複合的な要素が入っていることから、検討しながら可能なところから実施することを考えていきたいと思います。授業実施に関する貴重な意見であるので、次回以降の教務委員会で検討し、各学科でも検討していきたいと思います。	教務部
	C	教室の環境整備について 19-203教室のエアコンの風向きが斜めになっていて直接あたってしまい、止めるとエアコンから離れている人は暑いので調整が難しく、人数が多いときはどうしてもその近くになってしまうことがあるので、他の教室同様、風向きを上にしてほしい。	19-203教室のエアコンはファンコイル方式の空調機であり、送風口の羽を動かすことができないため風向きを変えることができません。上着を羽織るなど、各自で調整をお願いします。	事務局長
	D	バリアフリーに関することについて エレベーターについて、離れすぎていて車いすの人がすごく不便そうなので、もう少し対策があればいいなと感じている。	建物の構造や予算のこともあり、要望通りの位置や台数のエレベーターを設置することが難しい状況です。車いすの方については、アクセスルームや教務課で、1日の移動距離が可能な限り最短になるよう調整をしています。	事務局長